



帯広西ロータリークラブ 第2250回例会 2018.11.15 会報



■RI第2500地区テーマ■

行動するロータリー、つながるロータリー
～ロータリーの未来を考えよう～



■クラブ・テーマ■

常識を疑い、可能性に挑戦する

会長報告

佐藤 聡 会長

皆さんこんにちは。
先週は山梨出張で欠席させていただきましたが、楽しい例会の様子は広報委員会のFacebookとLINEのサイトで拝見させていただきました。



蛇足ですが、山梨県の名物をご存知でしょうか？ひとつは「ほうとう」…諸説ありますがこの名前は武田信玄が、米が貴重だった時代に小麦粉を練り名刀で削ってうどんのような形状にしたものから由来しているとのことだそうです。もうひとつは、「信玄餅」…これは柳月の「きなごろも」とほぼ同じもので黒みつが付いているものでした。近年になって有名になったものに甲州ワインがありますが、あるソムリエによると地球温暖化の影響で良質なブドウが収穫できなくなるので厳しい状況になるだろうとのこと。この地球温暖化の影響は、魚沼産のコシヒカリが特一等から陥落するなど地域産業に深刻な影響が出てきています。自然相手の農業を基幹産業とするこの十勝帯広においても他人事ではありません。ロータリアンとして、世界に目を向けることも大切ですが、地元十勝の未来を見据え環境の変化に順応できるような事業にも目を向けるべきだと考えさせられた出張でした。

さて、ロータリー財団月間ということで、本日の例会はロータリー財団委員会の担当例会となっております。

ロータリー財団は、1917年に当時のRI会長アーチ・クランプが「世界でよい事をするための基金」の設置を提案し、このビジョンと26ドル50セントの最初の寄付が全世界で多くの人の人生を変える財団へと発展しました。

ロータリー財団の使命は、ロータリアンが健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること、と記されています。

ロータリー財団に寄付する理由として、ご寄付の90%以上が、奉仕プロジェクトに直接生かされます。世界に35,000あるクラブは、発展途上国にきれいな水をもたらし、平和活動に携わる人材を育成するなど、世界中で持続可能な影響をもたらしています。ポリオ撲滅活動においても、予防接種活動を通じて発症数を世界で99.9%減少させてきました。

寄付が世界にもたらす影響は、わずかなご寄付で、一人の命を救うことができます。一人の子どもをポリオから守るのに必要なワクチンのコストは、わずか60セント(約70円)。さらに、ロータリーがポリオ撲滅に投入する資金に対してビル&メリンダ・ゲイツ財団が2倍の額を上乗せするため、ご寄付が3倍になってポリオ撲滅活動に生かされます。

ということで、今週は「未来を変える」という言葉を紹介させていただきます。

「どんなに悔いても 過去は変わらない
どんなに心配しても 未来はどうにもならない
現在に 最善と尽くすことだ
過去の失敗に学び
今を生きることが
唯一 未来を変える」
以上、会長挨拶とさせていただきます。

会務報告

小谷典之 幹事

- ①帯広南RC、夜間例会開催のご案内
日時 11月19日(月) 午後6時30分
場所 北海道ホテル
- ②帯広北RC、11月23日(金)の例会は、祝日のため休会と致します。
- ③帯広西RC、夜間例会開催のご案内
日時 11月29日(木) 午後6時30分
場所 北海道ホテル
- ④帯広南RC、年末家族会開催のご案内
日時 12月2日(日) 午後6時30分
場所 北海道ホテル
尚、12月3日(月)の繰上げ例会と致します。
- ⑤帯広西RC、年次総会開催のご案内
日時 12月6日(木) 午後0時30分(例会時)
場所 北海道ホテル



ニコニコ献金

米田慶司 親睦活動委員

河西 智子 会員
明日から帯広の森でスピードスケートワールドカップが開催されます。初日は、小平・高木選手出場の500mがあります。当日券もあります。応援宜しくお願いします。



鎌田 宏樹 会員
本日担当例会です。宜しくお願いします。
谷脇 正人 会員
先週のカーリング体験、多くの方にご参加頂き有難うございました。
米田 慶司 会員
ニコニコを発表させていただきました。

ニコニコ	11月15日	8,000円
献金	累計	261,000円 (11月15日現在)



会長 佐藤 聡 副会長 内海 仁司 会場監督理事 田中 耕吾 発行：広報委員会
幹事 小谷 典之 副会長 渡部 省一 プログラム委員会理事 谷脇 正人 委員長 菊池 俊博 (副)松田 貴史





「ちょっと知ってみよう。ロータリー財団の歴史」

鎌田 裕樹 委員長

財団委員会の鎌田です。ロータリー財団月間と言うことでロータリー財団の歴史について少しお話をさせていただきます。ロータリー財団が出来て、100年ちょっと。100周年の時に出来た記念誌が出ていますので機会があれば目を通してみてください。今日は、スライドを流しながらお話しします。今回は、財団の前半の部分だけお話しします。後半の部分をお話しすることはありませんが。

アーチクラフが財団の創始者ですが、「私たちは自分達だけの為に生きているわけではありません。誰かのために良いことをする喜びの為に生きるべきです。」と言って作ったわけですが、決してスムーズにロータリー財団が出来たわけではありません。ロータリー財団の父であるアーチクラフは1917年RI会長時に財団創設を提示しました。彼は、理事たちの前で財団設立を訴えましたが、なかなか同意を得ることはできなかったそうです。クラフがRI会長を辞める時の記念品購入の残金が26ドル50セント。そのお金を財団へ寄付することとなり、最初の財団への寄付金となりました。現在は資産10億ドル以上に成長しております。

ロータリーの標語である「Service Above Self. One Profits Most Who Service Best.」ですが、ももとは1910年のシカゴ大会でアーサー・シェルドンが「He Profits Most Who Serves His Fellows Best.」と言って、仲間へ貢献する事が利益を得ると言うことだったんですが、化学反応でお金の問題ではなく奉仕に切替えたのが現在の言葉となったのです。

第1次世界大戦の最中、1914年にクラフはRI理事になった時、会長よりロータリーが赤字であることを告げられ、一度限りの寄附をお願いされた。アーチクラフは、このままではロータリーが潰れてしまうということで、RI会長に就いた1917年のアトランタ大会で、社会奉仕を継続していくには基金が必要ということで、財団の設置を呼び掛けた。この時の基金の発想というのは、アーチクラフの出身地であるクリーブランドでは、お金持ちが亡くなると市が持っていた財団へ寄付をしたということにヒントを得たようです。この大会で、今のロータリーの原案となる定款が作られたのですが、その中の一つにロータリー基金の必要性を訴えた。が、アーチクラフの呼びかけに周囲は無関心で困ったようです。それで先にも述べたように、退任するRI会長に感謝する品をプレゼントする購入代金に余りが出た為、そのお金を基金へ入れた。それが26ドル50セントであり、こうしてロータリー基金が誕生したのです。しかし、6年経っても700ドルに過ぎなく、1928年ミネアポリス大会で初代委員長としてアーチクラフが任命され、正式に財団が立ち上がっても寄付が集まらなかった。これをアーチクラフは「元会長の内誰一人として、財団の為に力を貸そうとしなかった。とは言え、断固反対す

る人もいなかった。」と嘆いた。時代は、第一次世界大戦が終わり、世界大恐慌や第2次世界大戦へ向っていた為、ロータリーの方も自分のことで手が一杯だった。当初財団は、寄附を管理するだけであったが、寄附を集めるのも自分達がやらなければ集まらないということで舵を切りなおし、寄附集めも行うようになった。そして、アーチクラフはロータリー財団の原則を3つ唱えた。

- 1 経済力の範囲内でやりくりする。
- 2 いざというときの為に貯金する。
- 3 子孫のために保険をかけておく。

ということで、奉仕のことは出て来ていません。アーチクラフとしては、余裕が出来るまでロータリーを継続する為の基金が必要で、貯金しておくことがロータリーにとって一番と考えた。その後の活動で、1930年にははじめて障害児協会へ補助金を送ったり、平和と親善を推進する国際奉仕への認識を高める小論文に賞金を出したりして、少しずつ良いことの為に奉仕の為に財団のお金が使われた。第1次大戦後、平和の大事さがロータリーの中でも芽生え、国際奉仕を行う為に財団の必要性が生まれた。1936年には国際理解研究所が設立されたり、戦禍に苦しむ人々に寝具や食料を送ったりと少しずつ世界へ奉仕するようになった。そして1945年の第2次大戦後には、国際連合設立の為にサンフランシスコ会議に招致されるまでになった。第2次大戦では、ロータリアンも被害を受け、義援金を集めたが、今までにない程の多額の寄付が集まった。ということは、財団がはっきりとした目的を示せばロータリアンは惜しみない支援を寄せてくれる事が判明。奨学生制度の拡充・国際理解と友好関係を進める・被災者への支援などの準備を始めた。また、ポールハリスが1947年に亡くなったが、遺言で葬儀の献花を遠慮して、国際理解を深めるための寄付をしてほしいと頼んだら、130万ドル以上も集まり奨学金や被災者への支援が出来る資金となっていった。特にヨーロッパ各地に住むロータリアンと家庭に37000ドルを支援し、ロータリアンの友情は言葉だけではないという意識を生み、結束を生んだ。そして、1946年には緒方貞子さんに代表されるような国際親善奨学金制度を作った。

1951年にアーチクラフが亡くなりますが、この時には、300万ドルに達して、世界を動かせる基金となった。最後にアーチクラフは「ロータリー財団は、レンガや石の記念碑を建てるものではない。たとえ、大理石に碑銘をきざんだとしても、やがては崩れてしまうだろう。真鍮を使ったとしても、いつかは汚れてしまうだろう。だが、心の中に碑銘をきざむなら、そしてロータリー精神と、神をおそれ同胞を愛する気持ちを吹き込むならば、我々がきざんだものは永遠に輝き続け、文明の続く限り、ロータリーを不滅のものとするだろう。」

この後、ロータリーカードの説明を行う。

